



オープンしたときから 愛着のある公園

今年2月、維持管理などについて話し合われたワークショップ

思いが、公園の施設一つひとつにしつかりと織り込まれた」と振り返ります。

常盤小学校の児童は、体験機器を使った防災訓練で防災について学習したのをはじめ、公園を彩るモザイクアートのデザインや遊具選びに協力し、公園づくりにかかわってきました。昨年の春には、モザイクアートのデザインの原画制作に全児童が挑戦。その原画を基に、色タイル10色を使い、モザイクアート20点(クラス単位)を制作。グラウンドの南側の通路に飾っています。同小の江本学校長は、「子どもたちは遊具で遊ぶことを楽しみにしていますし、いろいろとかかわれたことで、すごく愛着のある公園になった」と話します。

多くの市民が整備にかかわり、常盤公園はまさに「みんなで作った公園」と言えます。

1月に初回を開催。岡山県立大学デザイン学部の熊澤貴之講師と斎藤美絵子講師が企画と進行役を務め、今年3月までに7回開催し、延べ約300人が参加しました。

公園の工事と平行作業で、骨格デザインや災害時に必要な防災設備、名前、完成後の維持管理などを、ワークショップの話し合いをもとに決定。この整備手法は市でも初めての試み。ほとんどのワークショップに参加した内藤章平さん(三輪)は、「参加した皆さんの



常盤公園に飾られたモザイクアート



遊具選びのアンケートに答える



モザイクアートの原画を描く



7月13日(火)オープン ときわ公園

災害に備え みんなで作った 防災公園

地域住民や常盤小学校の児童、岡山県立大学、行政が協働で、デザイン段階から整備を進めていた常盤公園が完成し、7月13日オープンします。憩いの場であり、防災機能ももつ公園の整備に携わった人の声とともに紹介します。

常 盤小学校の東側約1万㎡の土地に、県内2番目の防災公園として、常盤公園(三輪)が7月13日オープンします。

常盤公園は、地域住民がワークショップを通じて、デザイン段階から公園の整備にかかわった公園です。ワークショップは平成20年

常盤公園ワークショップの企画・実施者
岡山県立大学デザイン学部
斎藤美絵子 講師



常盤公園は防災公園ですから、みんなで助け合い、力を合わせる象徴としてモザイクアートを選びました。一つひとつは小さなタイルでも、並べたら一つの絵になります。公園に飾られているモザイクアートが、普段も苦しいときも元気をくれる存在でいてほしいと思います。